

転倒転落予防に対する看護師の意識についての実態調査

金沢医療センター 看護部 ○山本 奈都子 松本 かおり 谷保 和美
濱田 高枝 藤田 恵子

要約

A病院看護師の転倒転落予防に対する意識を調査し、今後A病院で取り組むべき方策について考察した。A病院看護師452名を対象に6項目のアンケートを実施し、5段階評価と自由記載で回答を得た。国立病院機構のキャリアラダーⅡ以下群（A群）、Ⅲ以上群（B群）とし、各群の中央値およびマン・ホイットニーのU検定で、自由記載は記載者の割合で比較検討した。アンケート回収率は56%であり、転倒転落アセスメントシート（以下シート）およびA病院独自の情報共有ツール（以下ころばん）の活用、情報共有、患者に応じた転倒転落防止策実行に関する4項目で有意差がみられた。A群はシートを活用しているのに対し、B群はシートを活用せず自身の経験を元に対応していること、両群で情報共有や転倒転落防止策に対する認識に差があるため、B群へのシート活用に向けた介入や、様々な経験年数の看護師が話し合う機会を設ける必要性が示唆された。（391文字）